

研究成果展開事業〔(独)科学技術振興機構〕 先端計測分析技術・機器開発プログラム(案)

背景

- 計測分析技術・機器は、世界最先端の独創的な研究開発成果を創出するための重要なキーテクノロジーであり、共通的な研究開発基盤。
- ユーザーや研究開発プロジェクトと連携したターゲット指向型の技術・機器・システム開発の取組を一層強化することが不可欠。

概要・体制

- 研究開発の進捗段階に応じて、「要素技術」「機器開発」「実証実用化」「開発成果の活用・普及促進」の4つの取組フェーズを設け、産学連携による研究開発を推進。
- 医療診断機器等、ユーザー側との連携が特に重要となる領域については「重点開発領域」として設定。領域毎に指名された領域総括が全体を俯瞰し、計測関係者のみならずユーザーや関係省庁を含めた公募採択・推進体制を構築。ユーザー側のニーズを踏まえた技術・機器・システムを戦略的に生み出すことで、研究開発現場、医療現場等での確実な利用につなげる。
- 開発開始1年経過時に中間評価を、開発終了後には事後評価・追跡評価を実施することにより、開発目標の達成状況を適時・適切に検証。
- 専門的な立場から開発チームを支援・アドバイスできる研究者(開発総括)を取組フェーズ毎に置き、効果的・効率的に開発を進める。

<技術・機器の開発>

ライフインベーション領域(仮称)

非侵襲かつ簡便にマーカーの測定を可能とする診断技術・機器・システム、未知のターゲット探索を可能とする計測分析技術・機器・システムを開発。

要素技術タイプ(4年)

機器開発タイプ(6年)

実証実用化タイプ(3年)



顕微質量分析装置

社会問題解決領域(仮称)

構造物の劣化・損傷等の点検・診断・予測する技術・機器・システム、PM2.5等の環境汚染物質の計測分析を可能とする技術・機器・システム、及び太陽光発電、蓄電池、燃料電池の飛躍的な性能向上等を可能とする計測分析技術・機器・システムを開発。

要素技術タイプ(4年)

機器開発タイプ(6年)

実証実用化タイプ(3年)



太陽電池モジュール高精度
インライン計測評価装置

最先端研究基盤領域(仮称)

我が国の創造的・独創的な研究開発活動を支える最先端な計測分析技術・機器等を開発。

要素技術タイプ(4年)

機器開発タイプ(6年)

実証実用化タイプ(3年)

放射線計測(復興特別会計)(継続のみ)

実用化タイプ(3年)

革新技術タイプ(5年)

<技術・機器の普及>

開発成果の活用・普及促進

これまでに開発されたプロトタイプ機を複製し、国内外の有力なユーザーの利用に供することで、当該機器の高度化、国際標準化等を推進。

開発成果の活用・普及促進タイプ
(3年)

実用化により
国内外の市場獲得
↓
我が国の
産業競争力強化

最先端の
研究開発現場
で活用
↓
革新的な
研究成果創出

※実証実用化タイプに係る開発費の半分は企業による自己負担。
ただし、中小企業の場合は、開発費の1/3が自己負担。
放射線計測の実用化タイプの開発費は、1年以上は企業が半額自己負担。